

「岡山大学危機対策本部平成30年7月豪雨災害対応記録集」の作成にあたって

はじめに、真備町等の被災地の皆さまにおかれましては、心よりお見舞い申し上げますとともに1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、教職員、学生の皆さん、関係機関の皆さまにおいては、平成30年7月豪雨災害への対応のため設置いたしました危機対策本部の活動にご尽力をいただき、誠にありがとうございました。

本学危機対策本部では、病院スタッフによる医療支援、災害ボランティア支援センターの設置、被災地への調査団派遣、復興計画策定委員会への参画等の支援を行い、本学として一定の使命を果たせたと思っております。

ここに半田山の一次災害応急復旧工事が終了し、倉敷の復興支援、ボランティア活動等も大学として活動の一区切りがつき、平成31年3月31日を以て危機対策本部を解散いたしました。皆様より賜りました多大なご尽力・ご協力に対し、あらためて厚く御礼申し上げます。

これまで、「岡山県には災害はない」というイメージは、今回発生した豪雨災害で脆くも崩れ去り、「備え」というものが、いかに重要であるかを痛感しました。一方で教職員・学生の皆さんが行ったボランティアや災害支援の活動は、非常に多岐にわたり、被災された多くの方々に希望や励ましを与えることができたと思っております。

本学は、SDGs（持続可能な開発目標）達成を推進しており、地球環境と人類社会の持続可能性を追求し、「誰一人取り残さない」未来のあるべき姿を世界共通の目標として、各々の地域や組織が協働して取り組み、持続可能な社会の実現を牽引していきます。

“手をつなごう岡山“(LOVE AND PEACH)を合い言葉に、教職員・学生が一丸となり、長期的な被災地支援に向け、引き続き地域社会と連携しながら全学を挙げて取り組み、ともに復旧・復興を目指して歩んで参りたいと存じます。

水害からの復旧・復興は、まだ、道半ばではありますが、平成30年7月豪雨災害に対するこれまでの本学の主な対応状況を、危機対策本部をはじめとして、地域総合研究センター、災害調査団、災害ボランティア支援センター及び岡山大学病院災害派遣医療チームの活動概要を「記録」としてまとめました。また、令和元年7月6日には、「岡山の水とくらし」をテーマとしたシンポジウムを開催し、防災を含め、岡山のさまざまな水とくらしに関わる人々の工夫と今後の取り組みのあり方について深く考える機会となりました。

この記録を、自然災害への対応にご活用いただければ幸いです。

令和元年9月

国立大学法人 岡山大学長
榎野博史

contents

学長挨拶

01	危機対策本部の対応	3
	■岡山大学危機対策本部について	4
	■主な取組・活動記録・関係資料	5
	■半田山自然教育研究林の土砂崩れ対応	16
02	災害調査団調査報告	29
	■土砂災害グループ	31
	■治水（河川工学）グループ	48
	■洪水（水文学）グループ	53
	■街の復興グループ	67
	■農地被害グループ・農業復興グループ	71
03	復旧・復興支援活動	73
	■岡山大学災害ボランティア支援センター（OVC）活動報告	74
	■地域総合研究センター活動報告	76
04	岡山大学病院の活動	91
	■岡山大学病院の活動記録	92
05	情報発信	123
	■ホームページ掲載資料	124

【平成30年7月豪雨災害対応記録集 編集方針について】

本記録集は、平成30年7月豪雨災害における岡山大学の取り組みについて、危機対策本部の活動を中心に各分野の活動報告を取りまとめたものであり、原則として対応時に作成された文書や資料を使用し編集した。